



ミニかわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

日本の就業者の上昇志向はアジア太平洋地域で最弱

現在、日本の非管理職就業者のうち、管理職になりたい人の割合は21.4%で、APCA（アジア太平洋地域）14の国・地域で最も低く、日本は管理職志向が最も低いことが、パーソル総合研究所がこのほど発表した「APAC就業実態・成長意識調査（2019年）」の結果（有効回答：APCA14の国・地域各1000人）で分かりました。同調査は、APCAと日本の「はたらく意識」の特徴を国際比較したものです。

管理職志向が最も高いのは「インド」（86.2%）で、以下、「ベトナム」（86.1%）、「フィリピン」（82.6%）と続きます。また、会社で出世したいという出世意欲についても日本は2.9点（5段階尺度の平均値）で最も低くなっています。最も高いのは「タイ」（4.7点）、以下、「フィリピン」（4.6点）、「インド」（4.5点）と続きます。日本は管理職志向・出世意欲ともに最低で、日本の上昇志向は14の国・地域のうち、最も弱いことが分かりました。

さらに、会社を辞めて独立・起業したいという起業・独立志向でも、日本は15.5%と最も低いです。一方、「インドネシア」（56.4%）や「タイ」（51.3%）など東南アジア（「シンガポール」（26.9%）以外）、「インド」（53.4%）、「中国」（42.9%）では、起業・独立志向は4割を超えています。他方、仕事選びで重視する点について、日本のみが「職場の人間関係」や「休みやすさ」がベスト3に入っており、独自の傾向がみられます。

次に、ダイバーシティに関して、日本は最下位で「女性上司のもとで働くことに抵抗はない」（5段階尺度の平均値3.8点、トップは「ニュージーランド」と「タイ」の4.4点）、「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」（同3.5点、同「タイ」の4.4点）で最下位、「年下上司のもとで働くことに抵抗はない」（同3.5点、同「ベトナム」の4.4点）でワースト2、一方、オセアニアや東南アジア、インドは「抵抗感はない」割合が高い傾向がみられます。

また、日本は勤務先に関する満足度も低く、「会社全体」に満足している人の割合は52.3%、「職場の人間関係」は55.7%、「直属の上司」は50.4%、「仕事内容」は58.2%であり、これらは全て最下位でした。さらに、「今の勤務先で働き続けたい」人の割合について、日本は52.4%で最下位、一方で、日本の「転職意向」は25.1%でこちらも最下位と、勤め続けたいとそれほど思っていないが、積極的な転職も考えていないようです。

* 詳細はこちらからご確認いただけます。

「APAC就業実態・成長意識調査（2019年）」について（パーソル総合研究所 2019年8月27日）
<https://rc.persol-group.co.jp/news/201908270001.html>